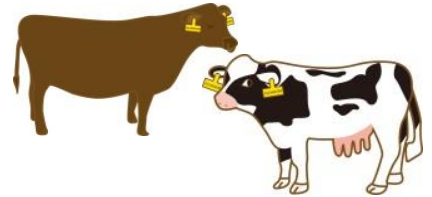


カビ毒にご注意ください！

今般、対EU輸出食肉の残留物質モニタリングにおいて、牛の尿検体からゼラノール誘導体が検出されました。原因として、飼料へのカビ毒の混入が考えられます。飼料(ワラ、稲WCS)を適切に管理して、カビの発生防止を心がけましょう。



ゼラノールとは

フザリウム属(アカカビ)が生産するカビ毒であるゼアラレノンから作られる内分泌かく乱物質。

ゼアラレノンに汚染されたとうもろこしや麦類、穀類の飼料を家畜が摂取することで、生殖毒性などの中毒事例が報告されています。



麦に生えたアカカビ
(提供: 岐阜県病害虫防除所)

カビ発生防止のポイント

- ・ 適切な飼料管理を心がけましょう。(保管場所、温度、湿度)
- ・ ラップサイレージは排水が良好な場所に保管し、ラップフィルムが破損した場合は速やかに補強しましょう。
- ・ 飼料にカビが見られた場合はカビのある部分を完全に取り除いてから給与しましょう。

飛騨家畜保健衛生所(飛騨総合庁舎内)
〒506-8688 高山市上岡本町7-468
TEL:0577-33-1111 FAX:0577-32-9019

